

海外事務所
だより

濟州特別自治道の誕生

ソウル事務所所長補佐 高本 真成(愛媛県派遣)

ソウル事務所

はじめに

韓国きつての観光地として知られる濟州島が、二〇〇六年七月一日から、軍事・外交・司法以外の高度な自治権を付与された地方分権モデル「濟州特別自治道」として新たなスタートを切りました。

同日行われた記念式では、盧武鉉大統領が映像越しに祝賀メッセージを送るとともに、多数の政府関係者が出席するなど、盧武鉉政権がこの取組みに大きな期待をかけているのがうかがえました。

濟州特別自治道として生まれ変わった濟州島について、島の概要からこれまでの取組み、そして今回の画期的な地方分権に関する取組みを紹介します。

濟州島の概要

濟州島は韓半島南西の海上に浮かぶ島で、釜山から三〇四km離れています。九州北部と同緯度に位置し、面積は一八四八km²(香川県と同程度)、人口は約五六万人です。島の中心には韓国最高峰の漢拏山(一九五〇m)がそびえ、年平均気温は平地の濟州市で一五・二度、冬でも零下になる日は少なく、一年を通じて温暖です。また、韓国の柑橘収穫量の大多数を占める第一次産業と観光業を中心とする第三次産業を主な産業としています。



↑濟州島南部の西帰浦市内から眺める韓国最高峰の漢拏山(1950m)

島には国内大都市はもとより、中国(北京、上海)、日本(東京、名古屋、大阪、福岡)、台湾からも直行便が就航しており、年中多くの観光客でにぎわっています。

これまでの取組み

濟州島は韓半島から離れた島として歴史・文化的に特殊性を持ち、また行政規模も小さいことから国のモデル地域として最適な場所であり、これまでもさまざまな取組みが行われてきました。

一九六〇年代から国際水準を目指した観光地育成に着手し、島南部の「中文観光団地」を中心に開発が行われました。一九九一年には「濟州道開発特別法」が制定され、地域開発・産業開発が総合的に推進されましたが、一九九七年の外国為替危機(IMF危機)以後、国内外の投資が減少し開発事業が中断されました。その後、景気の

回復とともに、国際自由都市を目指し物流・金融・観光など複合型開発事業を推進してきましたが、国家に依存した開発や投資基盤制度の不備のため成果は上がりませんでした。

誕生への歩み

二〇〇三年に就任した盧武鉉大統領は、これまで濟州島が歩んだ国家主導の開発路線とは一線を画し、「濟州道を分権の試験道、地方自治の試験道」(全国巡回討論会)として育成する意思を明らかにし、「組織・人事・財政権はもちろん課税権を含んだ自治立法権まで幅広く認める自治模範都市を作る」と発言するなど、特別自治道実現に向けて強い意欲を示しました。

これを受けて、濟州道は「特別自治道推進計画(案)」を作成し、二〇〇四年一月政府に提出。翌年五月には、濟州道の計画案を元に政府内委員会が「濟州特別自治道基本構想(案)」を発表しました。

また、同年

七月には、道内四市郡の行政体制を存続するか、二市に改編するかについての住民投票が行われました。韓



↑訪れる人を魅了する“特別な島” 濟州島

国初の住民投票として多くの注目を集めました。結果、改編案が存続案を上回り、特別自治道移行に弾みがつきました。

その後、「濟州特別自治道基本計画」の確定を経て、二〇〇五年一月に「濟州特別自治道特別法」が国会へ提出されました。そして、二〇〇六年二月、国会議決を経て同法が成立、七月一日の公布により盧武鉉大統領就任からわずか三年足らずで濟州特別自治道が誕生する運びとなったのです。

特別自治道の概要

今回設置された濟州特別自治道の目的は「自律と責任、創意性と多様性を土台に高度な自治権が保障される濟州特別自治道を設置して、実質的な地方分権を保障し、行政規制の幅広い緩和および国際的基準の適用等を通し、国際自由都市をすること」によって国家発展に尽くすこと(特別法第一条)とされています。

韓国が国際社会の中で国家発展を成し遂げていくためには、地方分権と規制緩和を国際レベルにまで持つて行く必要があります。まずその実験地域として選ばれたのが濟州島でした。濟州島での反応を見た後、使えるような施策は全国に拡散させていくという狙いがあります。そのため、「特別自治道」および「行政市」という新たな行政単位を法で制定し、濟州島の行政単位を改編(道+四市郡→特別自治道+二行政市)、他の自治

体との差別化を図り、特権を付与することが可能な土壌を作りました。

(1) 1 自治権の拡大

特別法の施行により、今まで国で行っていた多くの事務が濟州特別自治道に権限委譲されました。今後さらに状況を見ながら、軍事・外交・司法といった国家中枢に係る権限を除き順次進められる方向です。

また、立法機能の面でも強化が図られました。これまで政令で定めていた事項について条例での制定が可能になったことに加え、特別道知事に対し法律案提出要請権も与えられました。地域に反映させたい事項がある場合、濟州特別自治道支援委員会(国務総理・委員長)に対して法律案の提出を要請できる権限が付与されたものです。

財政面でも以前より手厚い国家保障が与えられました。地方交付税の三%および地方教育財政交付金の一・五七%が濟州島に配分され、権限委譲された事業財源についても支援されます。また、従来、道・市・郡で管理していた税金の一元化、税率調整や地方債発行に係る国の制限廃止など、財政運営に関する自立性も拡大されます。

そのほか、韓国で初めて導入される自治警察制(韓国の公安職は国家公務員)や国家特別地方行政機関の濟州島移管なども始まりました。

(1) 2 自治力の強化

大きな自治権限を与えられた特別自治道は、その権限を最大限、効果的に生かせる

よう、内なる面での改革も求められます。現在国の管理下に置かれている組織や人事に関する事項を道自らが決定できるようになりました。

また、与えられた人事権を生かすため、職位公募制の導入や外国人の任用拡大をはじめ、能力成果主義体系・教育プログラムを強化し優秀な職員育成にも力を入れます。そのほか、住民直接選挙によって教育委員長や教育議員を選出することにより、住民意思を教育分野へ反映させます。

(1) 3 責任性の確保

前述のように特別自治道に付与された多大な権限が放漫な運営につながらないよう、外部からの監視体制も強化されました。

韓国初の住民による公職者(道知事、道議会議員、道教育委員長)召還制度の導入や大規模事業に対する住民投票制導入など道政の責任性や透明性を確保する住民参加体制が構築されました。

また、政府においても、特別自治道と運営目標や目標達成評価に関する協約を締結し、その評価結果によっては財政面でのインセンティブを用意するなど道政運営を統制する責務を担います。

(2) 規制緩和と産業育成

濟州島が国際自由都市として発展するため、自治権強化とともに力を入れたのが規制緩和と核心産業の育成です。国が最大限に規制緩和を行うことで他地域との差別化を図り、人・商品・資本が国家間で自由に

移動できる自由市場を整備することにより企業誘致を図り、観光・教育・医療・一次先端(ITT)といった核心産業を育成していきます。

世界水準の総合観光・休養地および国際会議都市を目指し、濟州島全域を国際会議都市に指定(現在韓国全体で四カ所)するとともに、特別自治道へのカジノ設立許可権付与、免税店の利用制限緩和、ノービザ対象国の拡大(二七〇国→一八二国/一九二国)等が行われます。

教育面では、国内の海外留学の需要を濟州で吸収するため、外国教育機関の設立を緩和するとともに、国際的な教育機関を誘致し、多様な教育サービスを提供します。

そのほか、医療観光地・IT等の産業育成のため、経済自由区域として規制緩和を行うほか、減免をはじめとした支援策の強化により国内外の企業誘致を図ります。

最後に

一国二制度と言われるほど画期的な地方分権モデルとして注目を集める濟州特別自治道ですが、政府や特別自治道の理想を具現化するには課題もあります。

今回の特別法に反映されていない規制改善もまだ多く残されているため改善を進めていく必要もあり、規制緩和された事項についてうまく活用していく態勢を作らなければなりません。また、他地域に比べ

への財政依存度が高いだけに、自主財源を確保する手段を模索しなければなりません。

また、何より、今回与えられた自治権や規制緩和をどう生かして地域を発展していくのか、濟州特別自治道自らが大きな責任が課せられます。濟州自らが北東アジアで競争していくための戦略を考え実践していかなければ、今回付与された権限は宝の持ち腐れとなります。そして、濟州が韓国のモデル地域として指定されたため、他地域を先導していく責任もあります。そういった意味でも初代濟州特別自治道知事のリーダーシップによるところは大きいでしょう。

去る九月には濟州島でベ・ヨンジュン氏主演のドラマ撮影が始まり多くの観光客の訪問に沸き、また島の一部をユネスコ世界自然遺産へ登録申請するなど、濟州は行政面だけでなく文化観光面においても話題の尽きない地域です。

日本では地方の自主性・自立性を高め、国・地方を通じた行財政の効率化を背景とする三位一体改革のもと地方分権改革が行われていますが、今回の濟州島の取組みが日本にとつても参考となるよう、そして今以上に魅力溢れる地域になることを期待しています。



↑海に直接落ち込む正房の滝は迫力満点で、多くの観光客でにぎわいます

海外生活 だより

ソウル事務所

韓国の 資源リサイクル事情

ソウル事務所所長補佐 上田 明美（富山県派遣）

はじめに

赴任初日、仁川空港に到着し、その足で向かったソウル市内の大型スーパー。所々に立つて熱心に商品をセールスする店員さんの話す韓国語が全く聞き取れないことに不安を覚えながら、当面の生活に必要な品々をなんとか探しあてレジにたどり着きました。レジで商品を計算したアジュンマ（おばさん）が発した言葉の意味が分からず戸惑っている私に、買い物を手伝ってくれた事務所の先輩が「韓国ではスーパーの買い物袋は有料なので必要かどうかを聞いてくれるんですよ」と教えてくれました。

有料で提供される一回用品

日本同様に国土の狭い韓国では、埋立てによる処分が難しいことなどから資源のリサイクル率が高いようです。一九九二年に制定された「資源の節約とリサイクル促進に関する法律」などにより生産、流通、消費など商業全般にわたって発生する廃棄物を、国家と全国民が体系的な回収および積極



↑ファーストフードチェーン店にある1回用カップの返却コーナー。緑のボタンを押すとカップの料金が返却される

費など商業全般にわたって発生する廃棄物を、国家と全国民が体系的な回収および積極

的な再活用を行っています。スーパーの買い物袋は有料で五〇ウオンから一〇〇ウオン程度のお金を払わなくてははいけません。

このほか、マクドナルド、ロッテリア、スターバックスといったファーストフードチェーン店でも再利用容器の使用を積極的に進めています。日本ではこういったお店では、飲料水は使い捨ての紙コップで提供されるのが一般的ですが、韓国ではプラスチックのコップで提供されます。また、テイクアウト用の紙コップ（韓国では「一回用品」という）を利用する場合は、レジで五〇ウオンが加算される仕組みになっています。しかし、あらかじめ加算された紙コップの代金は、飲み終わった後に、お店にそのカップを持っていくと代金を返してくれることになっています。

また、日本ではホテルや旅館に行くところブラシ、シャンプー・リンス、カミソリなどは無料で用意してありますが、韓国では有料で提供することになっています。何も知らずに韓国を旅行すると「韓国では、買物しても袋にも入れてくれないし、ホテルに歯ブラシも備え付けていないし、ケチだ」と思うかもしれませんが、これは資源の節約のために国を挙げて環境保護に取り組んでいるためなのです。

前述の買い物袋ですが、赴任当初は、会社の帰りにスーパーに立ち寄って買い物をする度に、この量ならそのままかばんの中に入れるべきか、お金を出して袋をもらうべきかをアジュンマが品物をレジに通す数十



↑アパートのゴミ回収の様子

ゴミの出し方にも 厳しいルールが…

秒の間、頭を悩ませていました。日本では、スーパーでもらった袋をゴミ袋として利用する人も多いと思いますが、私は同じ感覚でアパートの前にゴミを出して警備アジッシ(おじさん)に怒られたことがあります。どうも、ゴミは指定のゴミ袋以外で出してはいけないかったようです。早速スーパーに指定のゴミ袋を買いにいったのですが、あまりの高さに驚いてしまいました。それぞれ20枚ずつ入っている、中サイズ(二〇ℓ)と小サイズ(一〇ℓ)のゴミ袋の価格がなんと一万ウォン。こんな高いゴミ袋を利用しないといけないなら、これからはなるべくゴミを出さないようにしようと思ったのは言うまでもありません。

ゴミの出し方にも細かい決まりがあります。韓国では戸建住宅より高層アパート(一棟の戸数は約一五〇軒)の比重が高く、全国平均でも四八%、ソウルでは六〇%近くがアパートに住んでいます。アパートの場合、二、三棟ごとにまとめてゴ

ミを出すようになっていきます。ゴミの分類は非常に細かく分けられています。分類の仕方は、自治体によっても多少異なるようですが、私の住むアパートでは、ペットボトルなどのプラスチック容器、瓶、缶、ダンボール、新聞、牛乳パック、発泡スチロール、生ごみ、そして前述の指定ゴミ袋に入れるその他のゴミに分けて出すことになっています。指定ゴミ袋に入れて出すゴミは毎日回収されるのですが、それ以外のゴミ(リサイクル可能なもの)は一週間に一度まとめて出すことになっています。なぜかゴミを出す時間は夜なのですが、その曜日になるとアパートのゴミ置き場にはこうこうと明かりがつけられ、警備アジッシと「婦女会」と呼ばれるアパートの婦人会のアジュンマがアパートの住民たちが決められたとおりにきちんとゴミを出しているかを厳しくチェックしています。瓶、缶と言った品目ごとに専用の大型ボックスが設置されているのですが、間違つて入れようものなら厳しくとがめられます。最初のころは何か言われるのではないかとびくびくしながらゴミを出していたものです。

生活の中で感じる 疑問とともに

さて、このように資源の節約、リサイクルに非常に力を注いでいる韓国ですが、実際に生活してみるとあれっと思う場面もあります。その一つが、買い物をする度に、やた

らとたくさんくれる「おまけ」です。例えば、化粧品を買うとコットン、ポーチなど、二ℓの牛乳を買うと、小さなサイズの牛乳が二つといった具合です。たまに、一体どっちが本体でおまけか分からなくなるほどです。

また、韓国の食堂で食事をするとき注文したメニュー以外にたくさんのおかずが出るのです。しかもこれらのおかずはすべて無料、そしてもつと食べたければおかわりも自由なのです。客人が来たときには、お膳の脚が折れるほどに皿を並べよという言葉があるほどに、とにかくたくさん食べてもらおうというのが韓国の食文化の基本にあります。そして出された料理はすべて食べるのではなく、適度に残してゆとりを見せるのが正しい食べ方と見なされています。これらのおかずは、全く手が付いていない、もしくはほとんど手が付いていない場合は、盛り直して次の客に使われるようですが、それでも必然的に捨てられる量は多くなつてしまいます。

これらは私の抱く素朴な疑問なのですが、旅行で数日間滞在するだけでは、あまり気付かないことかもしれません。海外で生活するということは、その国のさまざまな取組みについて、生活者として実感しながら、学ぶことができるとても恵まれた機会だと思えます。

最後に、韓国へ旅行される方へのアドバイス。「歯ブラシとシャンプー、買い物用のバックをお忘れなく!」